

## 1. 単元名 『大和茶の魅力を再発見しよう』

### 2. 単元の目標

#### 【知識・技能】

・大和茶の歴史やお茶の飲み方、大和茶を扱う店の努力などを調べ学習や聞き取り調査など用いて知り、それを発表資料としてまとめることができる。

#### 【思考力判断力・表現力等】

・アンケート調査の集計やまとめから得られた情報を基に、大和茶の現状を判断し、今後どのようにすればより大和茶の認知度や人気を上昇させることができるのかを自分の言葉で表現することができる。

#### 【主体的に学習に向かう力】

・問いを立てることや疑問に思うこと、アンケートの内容やアンケートから得られる結果の予想などを積極的に班で考え、交流し、学習を進めていくことができる。

### 3. 単元について

#### (1) 教材観

大和茶は奈良県の伝統的な茶である。その歴史は平安時代にまで遡る。弘法大師が遣唐使として派遣され、帰朝した際に唐から茶の種子を持ち帰り、これを現在の宇陀市榛原赤埴に播種して、その製法を伝えたといわれている。

現在大和茶が栽培されている地域は、主に奈良県東北部の大和高原一帯の地域である、奈良市(柳生・月ヶ瀬など)、山添村、宇陀市、大淀町、東吉野村などである。この地域は標高200~600M、平均気温13~15℃、降雨量1500mmの山間冷涼地で、日照時間が短く、昼夜の温度差が大きいため昼間に合成された糖類が消費されずに茶葉に残り、自然な甘みや旨味が生きた茶葉が収穫できる。粘土層の地質が多く、土がミネラルなどを多く含み滋味豊かな茶葉が育つ。また冬期は氷点下10度近くまで冷え込むこともあるため、害虫の越冬を妨げ、さらには朝霧が発生しやすい地形のため、適度な湿度により茶樹が潤う。また、吉野川流域の大淀町、東吉野村でも、恵まれた自然条件を生かした茶の栽培が行われている。銘柄は、産地別に月ヶ瀬茶、田原茶、柳生茶、山添茶、福住茶、都祁茶<sup>つげ</sup>、室生茶、大淀茶があるが、全県的に「大和茶」で統一されている。また、大和茶の収穫量は令和4年度で1755トン。全国では6番目に多い収穫量である。

大和茶の製法は、お茶の生葉を蒸し器で蒸し、「葉振るい」で葉を振るい、水分を取る。力を加えて「回転もみ」を行う。「もみきり」で形をつけ乾かす。「でんぐりもみ」で針状に伸ばす。「こくり」と呼ばれる作業で、茶葉の形を整え、光沢を出す。手もみ製茶の場合、これらの工程が5~6時間かけて行われる。3kgの生葉からできる茶葉は600g程であり、大変手間のかかる作業である。現在は機械による製茶が主流であるが、工程の原理は手もみ製茶の応用となる。また、高原で栽培されることから他産地と比較し一番茶の生育が1か月程度遅れるが、大和茶ならではの取り組みとして、7月に収穫する二番茶の品質の向上を目指し、一番茶の収穫後に一番茶新芽の残葉だけでなく、下部の硬くなった枝葉も含めて6月に収穫する「親子番」と称した手法に産地をあげて取り組んでいる。

このような大和茶について、班に分かれて活動を行うことで、それぞれの班が自分たちの調査をしっかり行い、最終的な全体のまとめにつなげ、大和茶の展望を考察できるような学習を行う。

## (2) 指導観

本学習は、奈良教育大学附属中学校の総合学習において、卒業研究に繋がる学習の一環として位置づけられる。1年次の春の奈良めぐり、秋の合同めぐりを経て、2年次の春の奈良めぐり、秋の合同ならめぐりがあり、3年次の卒業研究に繋がる問いの探求を行う。その中で本学習は2年次の秋の合同ならめぐりである。ここでは1年次に先輩に連れて行ったもらった秋の合同ならめぐりを、この2年次では自分たちで問いを立て、それについて調べ学習や聞き取り調査、アンケート調査を行うことでどのようなことが分かるのか考察する。

## (3) 生徒観

2年生は比較的落ち着いた学年である。1年生の時から総合の学習を始め、その他教科の学習においても自ら問いを立てる練習を行っている。また、1年生の時に秋の合同ならめぐりを昨年の2年生と共にしているため、秋のならめぐりに対するイメージも持っている。そのような状況で本学習では、3年生の卒業研究に向けた総合の時間として、自ら立てた問いに対して調べ学習を行い、直接を店に行き、聞き取り調査やアンケート調査を行うことで、卒業研究に繋がる学びを得る。

## 4. ESDとの関連

### ① 学習を通して主に養いたいESDの視点

- ・相互性：奈良県に住んでいるが、大和茶を知らない、もしくは飲んだことがないという生徒がほとんどである。一部知っている・飲んだことがある生徒も、どのように大和茶が育てられ、どのようにブランディングされているのかを知る生徒はほとんどいない。大和茶の魅力を再発見する取り組みを通じて、自分の住む地域、自分が学習を行っている地域と、その地域の特産品とのつながりを考える。
- ・協調性：アンケートづくり・調査・集計や、調べ学習、奈良めぐり当日の聞き取り調査など、班での活動を中心に行い、班員をはじめコース全体で協力してそれぞれの課題に取り組む。他者と協力して学習することを通じて協力して学習することの楽しさや達成感、協力して物事を行う難しさを学習する。

### ② 学習を通して主に養いたいESDの資質・能力

- ・進んで学習する態度  
地域や地域の特産品の現状や展望を考え、奈良の伝統的な特産品である大和茶の持続可能性を考える。
- ・批判的に考える力（クリティカル・シンキング）  
大和茶は知名度が低いのかを調査し、なぜ大和茶は知名度が低いのかを考え、どうすれば知名度が上がり大和茶の魅力が伝わるのかを考える。

### ③ 学習を通して変容を促す ESD の価値観

- ・人と環境との関係（経済的側面）  
大和茶は生徒たちにとって身近であるが、その地域性・知名度・展望などの大和茶の情報は決して身近とはいえない。しかし、本学習を通して大和茶を深く知り、大和茶の今後を考えることを通じて奈良県の特産品である大和茶の魅力に気づき、地域の経済の一部である大和茶の地域性と、今後の展望を具体的に考える力を養いたい。

## 5. 活動内容

月	日(概要)	詳細
6月	6月22日(木) ・奈良めぐり全体説明 ・コース概要説明 ・コース希望調査	○全体の説明とコースの概要説明
7月	7月6日(木) ・奈良めぐりコース開き  7月12日(水)、13日(木) ・事前学習①	○奈良めぐりのコース開きを行う。コース内の自己紹介と、コースの内容の確認を行う。  ○4つの班に分け、活動を開始 1班・大和茶の歴史についての調べ学習 2班・大和茶に関するアンケートの作成 3班・お茶の種類・飲み方の調べ学習 4班・高山茶筌についての調査
8月	8月10日(木) ・有志生徒は大和茶屋「茶楽茶」への校外学習。	○実際に大和茶を扱っているお店に聞き取り調査に行き、奈良めぐり当日のリハーサルを含む学習を行う。
9月	9月7日(木) ・夏休みの事前学習をもとにした学習。  ・当日の活動に向けて学習を行う  9月21日(木) ・有志生徒によるまとめの発表。 ・お茶の飲み比べ  9月28日(木) ・ここまで行ってきた事前学習を1年生に伝えられるよう発表資料を作る。  ・お茶の飲み比べのアンケートを集計し、気づいたことをまとめる。	○夏休みに校外学習を行った有志生徒は、聞き取り調査の内容をまとめ、全体に発表する準備をする。 ○有志以外の生徒は各班でこれまでの学習の続きに加え、当日聞き取り調査を行うために訪れるお店を決定する。 ○4班はお茶の飲み比べの際に使うアンケートを作成する。  ○有志生徒によるまとめの発表。 ○大和茶・宇治茶・知覧茶の飲み比べを行い、それぞれのお茶に味の違いがあるのかをアンケートで確認する。  ○各班のこれまでの学習のまとめを、canbaを使って発表資料にする。  ○4班はアンケートの結果を集計し、その気づきも含めて資料を作る。
10月	10月5日(木)5・6限 ・1・2年生合同で行う 5時間目 ・1・2年生で別々の学習を行う。  6時間目 ・2年生による1年生への発表	○1年生は大和茶を実際に飲んでみる。 ○2年生は6時間目に1年生に対して行う発表の準備を行う。  ○1年生は2年生の発表を受けて奈良めぐり当日に活動する班を決める。

	<p>10月17日(火)終日</p> <p>10月19日(木)5・6限 事後学習 ・公開研修会(総合)発表準備</p> <p>10月26日(木)5・6限 ・事後学習。 ・公開研修会(総合)発表準備。</p> <p>11月2日(木)5・6限 ・1・2年生合同で発表会を行う ・2年生の発表を、1・2年生が聞く</p>	<p>○奈良めぐり当日 【聞き取り調査対象店舗】 1班 Grancha 2班 田村青芳茶園茶舗 3班 春日荷茶屋 4班 招福庵</p> <p>○これまでの学習に加え、公開研修会への発表準備を行う。 発表準備とは具体的に、事前学習のまとめ、奈良めぐりで行った聞き取り調査のまとめと気づきから得られた考察を行う。</p> <p>○各班の有志4名は、奈良めぐり当日に行ったアンケート調査の結果を出す。 全体のまとめを行うと共に、これまでの学習全体で得られた情報を基に、「大和茶の魅力とは何か」、「大和茶の知名度はどれほどのものか」、「大和茶の魅力を発信するためにはどのようなことを行えば良いか」について考察する。</p> <p>○公開研修会への発表準備において、各班アンケート結果で得られた情報も盛り込んでいく。</p> <p>○2年生は1年生に対してこれまでの学習内容を発表する。</p>
11月	11月8日(木) 公開研修会(総合)発表	○代表生徒2名による公開研修会での発表を行う。